

「7/5 までの勉強会まとめ」と「7/5 勉強会流れ」について
哲学コース 3年 想田 瑞恵 2010年7月14日(水)

①「合意」と「価値」

「7/5 勉強会流れ」を読むと、「あらゆる考え（「対話に参加したい」など）は、その人の傾向性（感受性）の現われではないか」という趣旨の質問を、私が繰り返していることがわかる。この質問の意図は何であったのか。

こういう質問をする私が「7/5 までの勉強会まとめ」を読んだとしたら、作成者に「あなたは、そう思うんだ」と言うだろう。これは、端から合意を目指す気などない、と示す言葉だ。この言葉は、まず、「考え」や「意見」を、その人の感受性の表れとしての「思い」とみなしている。そして、「私自身（私の感受性）に価値がある」という前提がある。もし、その人の「思い」を受け入れたら、つまり、合意したら、私らしさ＝私の独自性＝私の特別さがなくなってしまう。ゆえに、合意を拒み、私の「価値」を守ろうとするのだ。しかし、前回の勉強会で確認したように、私自身に価値はない。合意を目指す限り、理性の行使者としての価値が、私に生じるのであった。

上記の質問は、「私が私であることに価値はあるのか」という問いであったと思う。「私でなくてもいいのではないか」という不安が大きいのだ。この不安が、感受性の固執と対話の拒絶に走らせていたのだが、この動きは、不安の解消から逆走していた。私の価値は、単なる「思い（感受性）」ではない「考え」を語る（合意を目指す）ことにあるからだ。では、なぜ、合意を目指す私が価値を持つのか、尊重に値するのか。自分の価値について整理すると、合意・対話についての理解が深まると思うので、「私が私のように考えることにあるはずの価値」と、「カントが見出したという相対的ではない価値」について考えたい。

②「想定」

「7/5 までの勉強会まとめ」の「感情とは違うものを想定する必要があるかもしれません」に関して、「想定」でいいのだろうか、と、後から疑問に思った。おそらく、私にとって「想定」とは、危険な言葉であるからだ。私は、自分に絶望してしまわないように、あるいは他人と関わるために、「自分には、文脈からひどく離れたことは言わないだけの賢さがある」とか「自分は、人に醜いと言われないだけの容貌を持つ」などと、「想定」して生きている。しかし、自分とは、心地よいナルシズムに陥りやすく、「自分に都合のいい想定」、すなわち「勘違い」をしがちである。ゆえに、客観性や確実さを求めて、常に他人の言動を気にしている。

もちろん、理性を想定するときの「想定」は、「証明できない」という意味であると思う。理性の存在が、勘違いや単なる妄想だとする権利は、誰にもないだろう。しかし、同時にそれは、『人間に価値がある』という考えのための、都合のいい想定」という枠を越えることはできないのではないか。どんな考えも想定にすぎないと言うのなら、自分の世界直観を信じるのみではあるが、「理性の想定」は、上記のような「賢さの想定」などと同じでいいのだろうか。価値の根拠であるようなものに、確実さが無いということが、どうにも落ち着かないのだ。